

改尸

秦人を奉れるが始なりしと所思ゆれば、此縁に本づき、かつ姓のいまだ知られざるは、若くは諸蕃の族ならむかと嫌疑ひて、まづ秦と云て、皇別神別の貴族に混はざらしめむと爲たると通えて、古意に叶ひて所思ゆるを、此はなほ能考ふべし。

〔名目抄〕諸公事言説改尸

〔名目抄詳註〕諸公事言説改尸

假令改宿禰爲朝臣之類、曰改尸、

〔後深心院關白記〕應安七年六月廿七日辛酉、爲仲光奉行、有勅問事、下部氏人等改宿禰、可賜朝臣之由申之、何様可有沙汰乎者、追可申所存之由答之、兼繁已下八人連署申之、連署人數註裏

裏書曰

申改尸事、連署人數、

神祇權大副兼繁 左京權大夫兼熙 散位兼雄 散位兼遠 前備後守兼種 前安藝守兼有

丹波守兼内 散位兼敦

廿八日壬戌、昨日勅問改尸事、注申詞、注裏 相副本解附奉行了、

裏書曰

余申詞如此、注折紙、每度如此、

兼繁宿禰以下申改尸事

凡改尸者、先蹤多賞、其人之時、有此沙汰歟、於今儀者、勅許似無其詮、此上事宜、在時宜矣、

○按ズルニ、改尸ハ多クハ賜姓ナリ、賜氏及加婆禰條、賜加婆禰不賜氏條等ヲ參看スベシ、

〔中臣氏系圖〕延喜本系解狀略○中

同本系云、略○中 國子大連公孫、中納言左大辨兼神祇伯正四位上中臣朝臣意美麻呂糠手子大連公

復姓